

たぐみ

T A K U M I

No.006

平成 11年6月

信州名匠会

(題字：池田三四郎名誉会長)

港町・新潟の建築文化に学ぶ

'98 信州名匠会研修旅行「新潟県の建築見学」



信州名匠会の'98年の研修旅行は、平成10年11月14～15日の2日間、21名の参加により挙行された。目的地は新潟県下越地方。新潟市とその周辺に点在する近代建築と歴史の古い建築のなかですぐれたものを訪ね歩いた。

③紅葉の庭園を背に、市島邸正門前で記念撮影



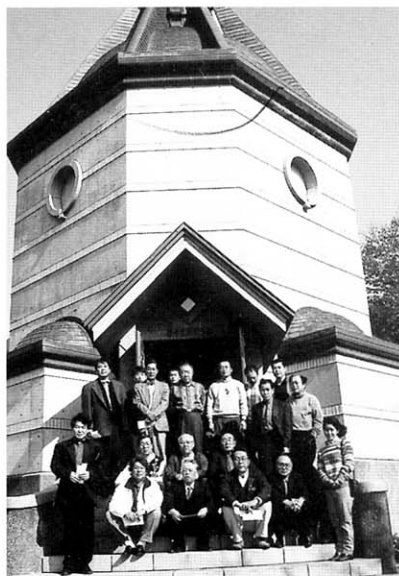
①豪農の館・伊藤邸。手前はあすま屋

◇地域の歴史・文化の跡を訪問

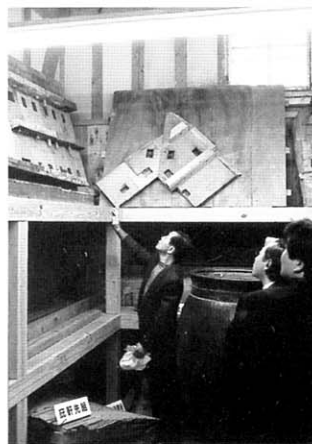
幕末の開港時に五港の一つとして開かれた新潟は、他に先んじて西欧文明を吸収する機会に恵まれた街。往時の名残を残す史料価値の高

い建築が、いまま随所に残る。

旅行での訪問先は、新潟市中心部にある「新潟市民芸術文化会館」(写真④⑥)、長年の風雪に耐えた建築もさることながら、鎌倉・室町の古式によりつくられた廻遊式庭園に目を引かれる「豪農の館 伊藤邸」(写真①)、簡素優雅を特徴とする明治初期の代表的住宅建築「市島邸」(写真②③)、少女雑誌の挿絵画家の美術館にふさわしいメルヘンチックな洋館「^{ふきやこうじ}落谷虹児記念館」(建築家・内井昭蔵氏設計 写真⑤)、日本一の大鳥居をもつ「弥彦神社」など。港町として、あるいは城下町として栄えた街々の文化にふれ、参加者はそれぞれの専門分野で研鑽を積んだ。



⑤大正～昭和期に一世を風靡した挿絵画家の美術館・落谷虹児記念館



②市島邸にて、床組みの展示・解説に見入る

'98 研修旅行寸描 都市景観に溶けこんだ空中庭園に感嘆

新潟市民芸術文化会館



④新潟市民芸術文化会館ロビー。回遊ルートの一部として常時開放されている

◇都市的回遊空間の誕生

このたびの旅行のなかでも特に印象深かったのが、新潟市民芸術文化会館（SRC造6階、延べ2万5000平方メートル、長谷川逸子建築計画工房）。千曲川からの長旅を終えて日本海に注ぐ信濃川のほとり、新潟市役所に隣接する白山神社・白山公園や既存の県民会館、市公会堂、音楽文化会館、総合運動場に囲まれた一角に位置し、平成10年5月に完成したばかりのコミュニティホールである。

会館の建設を機に、これまで個々に分断されていた公園や各建築は、ひとつつぎの都市的回遊空間に生まれ変わった。各施設間の道路が埋設され、川の堤や各施設、市街地の間にはいくつもの人口地盤緑地（空中庭園）が生まれ、それらがブリッジで結ばれたのである。「群島システム」（長谷川逸子建築計画工房）と呼ばれる手法だ。

⑥市民能楽堂では舞台観賞もおこなった

◇周囲と一体化したパブリックスペース

会館はロビーを2階に設けた。この構造は、周辺環境整備と密接に関連する必然性から生まれた。道路の埋設によってできた丘陵が各施設の2階レベルの高さになることから、このロビーを回遊ルートの一部と位置づけて、催しの有無にかかわらず常時自由に入出りできるスペースとしたのである。市民は、天候や時刻を気にせず思いのままに語り合える場を手に入れた。会館ロビーは、さながら室内化された公園である。

さらに同会館は、屋上にも眺望のよい庭園を有している。ゆったりとした信濃川の流れや市街地の町並みを眺めながら、穏やかな時を過ごせる空間である。

街と川、周辺施設の間地点に身を置いてこれらを結合し、自らも空間を開放して都市との一体感を高めた同会館の試みは、建築と周囲の環境とのかかわりに関するさまざまなアイデアへと発展する予感をはらんでいるといえるだろう。



○研修旅行日程

11月14日（土）／長野→白山公園・新潟市民芸術文化会館→北方文化博物館・豪農の館 伊藤邸→新潟ロシア村→月岡温泉 華鳳（泊）

11月15日（日）／月岡温泉→新潟県文化財 市島邸→落谷虹児記念館→弥彦神社→寺泊 魚のアメ横→長野

○'98 信州名匠会研修旅行「新潟県の建築見学」参加者名簿（氏名／所属）■伊藤章／（有）アキプランニング・倉橋英太郎／（株）倉橋英太郎建築設計事務所・小林進一／（株）さつき苑・鈴木隆／ルームデザインハウス・竹内公夫／（株）ダスキンプホーム・西宮登喜男／（有）綿内瓦工業・宮川裕行／三ツ友建築企画・宮下恒夫／サンコー特機（株）・宮沢淑／（株）藤森鉄平石・山崎邦男／山崎工務店・井内八雄／（株）井内工務店・池内信二／（株）タクザワホームिंग・岩井英一／岩井工業（株）・大日向幸生／（株）本久・五明良平／（株）五明・坂田守夫／坂田工業（株）・左右田昭道／（株）インテック左右田・若林義久／（株）二見屋・竹内美樹／（株）新建新聞社・西澤嘉雄／（株）宮本忠長建築設計事務所・頼原澄子／（株）宮本忠長建築設計事務所（計21名）

「地域の木造建築の未来と建築士の育成」

日本建築士会連合会の中に、地域性施工委員会という特別委員会がある。

この委員会は、私が責任者で、委員は筑波大学の安藤教授、山口大学の藤本教授、宮城県士会の村田会長、埼玉県士会の孤田理事の5名という少数精鋭の委員会である。

この委員会のねらいは、地域により異なる実態を踏まえ四号建物100以下という主として木造住宅を中心とした木造建築に焦点をあて、木造住宅（建築）に取り組んでいる工務店、大工棟梁、一級・二級・木造建築士の業務形態を改良・改善し、閉塞状態の現況を踏まえ将来に光明を見出す検討・提言をまとめることである。

ここ2～3年、委員会は検討討議を重ねている。そこで、ようやくまとまりつつある項目をこの機会に名匠会ニュースに掲載し、会員のご意見を伺った上で、連合会への報告の参考にし、しかるべき機関による決定に漕ぎ着け、2000年から実施できればと願っている。

[資料] ● 「実態を踏まえての考察」

1. 現況：

現在、一級建築士20数万名、二級建築士40数万名、木造建築士1万2千数名をわが国は建築士として擁している。

しかし、いわゆる四号建物や100以下の木造建築においては、建築士による物件や工務店・大工棟梁による物件よりも、ハウスメーカーによる物件がふえつつある。

確かに、前者による物件では現場監理段階における検査の不徹底が原因の被害が発生することがままあり、それによって、消費者は不信感を抱かざるを得ない状況にある。

建築士・工務店・大工棟梁はこの現状に早急に対応して行かねばならない。

2. 建築士の実務教育：

各ブロック士会が主導して行く総括的対応策として、建築士の再教育の必要性が強い。消費者（施主・市民一般）のニーズを建築士が的確に理解していくことが急務である。

①指定講習会への出席を奨励し、受講修了証と引換えに専門リスト登録し、認証状（証明）を交付。

②地域の大学、研究機関と協力し、有効な特別講座（建築士会が負担した寄付講座）を開き、デザイン文化、構造法をはじめ、時代に即した必修科目（例えば、地域特性を基盤にした工法、技術、まちづくり、景観形成、デザイン総合性等のカリキュラム）を一定年数のなかで履修し、更に業務上の専門性種目を明確にし、専門職業の領域を公開する。

3. 建築士法の改正・整備：

建築士の位置づけをより明確にするための、資格名称と受験資格の改案への試み

①一級建築士と二級建築士は合体して、試験科目内容等は両者を総合して「建築士」として一本化する。（受験資格は大卒）

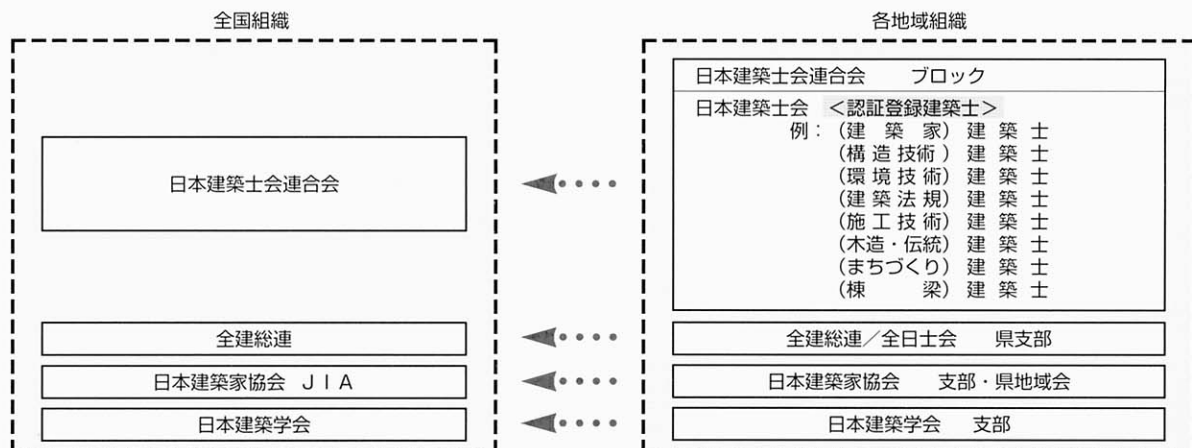
②木造建築士は「木造士」とする。（受験資格は中卒）

4. 地域性を踏まえて／建築士、木造士、職人との関係：

土着文化としての木造建築における職人不足、建築士の技量低下を防ぐため、地域に根ざした建築士の活躍が期待される。すなわち、地方における地域特性を活かし、消費者に質の高い木造住宅を供給することである。実際、このような木造住宅の生産を試みる生産組織も存在している。また、「名匠会」等の私塾が主に県単位で結成され、切実な危機感の中で明日への展望を求めて、研修・研鑽を積んでいる。

5. (社)日本建築士会連合会の提案する建築士認証登録制度

さらに、地域単位で建築士のより細かな認証登録を進め、建築士一個人の職能を消費者（施主・一般市民）にわかりやすくする。その結果の、建築業界諸団体との位置づけは以下のようなものとなる。



●定例研修会 Report

平成10年10月～平成11年4月
於：宮本忠長建築設計事務所・緑艸舎

月1回の割合で開催している研修会も回を重ね、内容も充実してきた。以下に、最近の研修会からそれぞれ要旨を紹介する。

銅板の寿命は施工次第。熟練が不可欠

板金 (平成10年10月)

講師：(株)二見屋／水沢仁亮氏



◇皮膜加工製品も登場

ブリキ、トタンや軽くて丈夫なチタン合金など多彩な金属屋根材。このうち銅板は、仏閣や和風高級住宅に多用される伝統的材料。近年価格の変動がなくなり、使いやすくなってきた。

銅板の大きな特徴に、^{ひよくしゅう}緑青などの皮膜が出るがある。これは長い年月が経つうちにできるものだが、現在は、あらかじめ緑青を出す、塗装でコーティングするなどの方法で皮膜加工した製品も使用されている。

◇伸縮率を体でつかむ

銅板屋根は気温によって伸縮する。施工時に「はぜ」がきつすぎると、季節や昼夜の温度差で伸縮を繰り返すうちに銅板は切れてしまう。

銅板屋根の寿命は、施工のしかたで左右される。長持ちさせるためには、銅板の伸縮率を把握することが必要。

はぜにどれくらいの余裕をもたせるか、その加減のコツは、失敗を繰り返して体で覚える以外に方法がない。素材を長く生かすためには、時間をかけて腕のいい職人を育てなければならない。

条件に適合した材選びを

シーリング材 (平成10年12月)

講師：坂田工業／坂田守夫氏



◇建築外壁の水密・気密性を保つ

建築の外壁にある目地（部材と部材の間の隙間）は、温度・湿度の変化や地震・強風などの自然環境に耐えるために必要なもの。しかし目地をそのままにしておくと、外壁の水密性・気密性が損なわれる。これを防ぐために、シーリング材が用いられる。

シーリング材は大別して、定形材（あらかじめ形状が定まっている）と不定形材（使用前はペースト状で、詰めて時間が経つとゴム状に変化する）の2つに分かれる。一般に、不定形材が「シーリング材」と呼ばれている。

◇求められる多くの条件

シーリング材は、水密性・気密性や目地の動きに対応でき、耐久性にすぐれていることが要件。施工時には①容器から出して目地に充填するまでに成分が混ぜやすい、②仕上げやすい、③垂れにくい、④充填後短時間で硬化し、周辺材と同じ色に落ち着くこと、施工後は⑤剥離や破断を生じない、⑥紫外線や気温・天候の変化にさらされながら、長期にわたり機能を保つ耐久性などが要求される。

JIS 規格によりシリコン系・変成シリコン系・ポ

リサルファイド系などに分類されるシーリング材は、種類により特性や硬化条件が異なる。使用場所や使用条件に合わせて使い分けるため、各々の材質を熟知することが肝要である。

■平成11年 新年会

平成11年1月27日、長野市「割烹さがみ」において、信州名匠会の新年会を開催。

会員34名が一堂に集い、新年の抱負を語り合いながら親睦を深め、情報交換も活発に行われた。

瓦の装飾性に機能性を加えたい

瓦 (平成11年2月)

講師：(株)屋根技術研究所 都築巖氏



◇住宅における屋根の位置づけは

阪神大震災をきっかけに、台風や地震などの自然災害に対する屋根の役割を考え直す必要を強く感じはじめた。また太陽光発電パネルの出現によって、屋根の位置づけは変化した。瓦はこれまで、屋根装飾仕上材と位置づけられていたが、これからは装飾性を維持しながらクリーンエネルギー創出の機能をいかに組み込むかを考えていきたい。生産者の利益よりユーザーの利益を追求しなければならない時代である。

◇光発電パネルを建材という視点で見直す

光発電パネルは、今後ますます一般家庭に普及していくと思われる。しかし現在の製品はセルの変換効率向上を追求するのみで、建築全体のバランスを保つための

「建材」という視点に欠ける。設置にあたっては、屋根の耐久性を損なう無謀な取り付けがされたり、設置のために瓦でなくトタンなどが選ばれることもある。

災害に強い、メンテナンスは容易か、施工性はよいかなどの条件を克服しながら、光発電装置は建材化し、普及していく。瓦の製造・工事業者は今こそ、ユーザー本位の屋根の創造に全力で取り組みたいものである。

家は個人のもの、庭は皆のもの

造園 (平成11年3月)

講師：(株)さつき苑 久保敏幸氏



◇庭園に自然を取り込むという冒険

およそ50年前、造園業界は、京都の竜安寺、大仏院、銀閣寺などに代表されるような宗教的色彩を強く反映した庭園を志向し、またそうでなければ認められない環境にあった。私の師である故・小形研三氏はそんな時代に、庭園へ自然を局部的に取り込む「自然写景式庭園」を確立した。私を魅了し、約30年にわたってこの世界に関わらせているのは、雑木という素材をモチーフとした作庭の第一人者である小形氏の造園哲学であるといっても過言ではない。

◇庭は生きており、時とともに成長する

あらゆる庭づくりにおいて、常に心がけていることがいくつかある。それは、①庭に使用する植物は生き物であり、枯死させてはならない、②設計段階で木の特性と成長を考慮し、現時点の庭園と木が成長した後の庭園双方を考える、③利便性や住みやすさを備えるだけでなく、住む人、使う人の心に安らぎを与える空間をつくる、④

海や小川、滝など自然の中にある表現を取り込みながら、全体のバランスを保つ、⑤家は施主個人のものであるが、庭園は道ゆく人々の目にふれ、共有されるものであること、などである。

健康に訴える新しい畳の可能性



(平成11年4月)

講師：(株)インテック左右田 左右田昭道氏

◇畳がもつ環境面での利点

最近10年の間に畳床が減り、主流は建材床へ移った。大きな理由は、ワラの減少と断熱気密住宅の増加。純粋な稲ワラ畳は激減し、化学材をワラで挟んだ畳や化学製品100%の床も増えている。また気密性の高い住宅では、ワラ畳は室内の湿気を吸収してカビ・ダニの発生源ともなるため、衛生上、建材床の方が適する場合がある。

しかし環境や健康への関心が高まる今、廃棄処分に苦慮する化学製品より環境負荷の少ない素材が求められるし、換気・通風の重要性から、ワラ畳の利点が見直されるべきだ。

◇特性を生かし、現代の住宅に適する畳を

木質フローリングの洋室が住宅に取り入れられる機会が増えている。畳が生き残るためには、現状に即した製品の開発に積極的に挑む必要がある。持ち運びや設置が容易な「置き畳」は、需要が増えているし、見込み生産や製造コスト削減も可能だ。

また芯部に炭シートを挟んだり、ハニカム構造の畳床に炭・ヒノキのチップを入れて、調湿・脱臭やホルムアルデヒドなどの吸着といった健康面での付加価値を高めた新製品も提案していきたい。



●定例研修会 Report

●信州名匠会新会員紹介 (H11.5月現在)

職種★氏名★会社名★住所★TEL

- 金属・金物★関野和人★(有)アーキクラフト★須坂市上八町1790 ★☎026-248-8621
- 硝子★渡辺昌祺★渡辺硝子建材(株)★長野市大字若里807番地15 ★☎026-227-1113
- コンクリート二次製品製造、アルミ鋳造製造、建築・土木石材★久保正直★アスザック(株)上高井郡高山村大字中山981 ★☎026-245-1000
- 建築設計監理★溝端利一★MEデザイン室★長野市高田292-13 ★☎026-228-0292
- 木工事★町田光幸★長野県森林組合連合会★長野市大字穂保中ノ配342 ★☎026-296-4250

お知らせ

信州名匠会総会

平成11年度信州名匠会総会を、下記の日程にて開催いたします。万事お繰合せのうえ、ご出席ください。

- 開催日時 平成11年6月24日(木) 15:00 受付開始
- 会場 御本陣 藤屋旅館/長野市大門町80 Tel.026-232-1241
- 次第

1. あいさつ	15:30 ~
2. 総会	15:45 ~
3. 講演会(会長)	16:30 ~
4. 懇親会	17:45 ~
閉会	~19:15 (予定)

*なお、翌6月25日(金)には、長野カントリーゴルフにてゴルフ大会を開催する予定です。ふるってご参加ください。